

# 新春座談会

## 新たな健康長寿サービスの創造を目指して

### 協会創立60周年を迎えて

平成27年1月24日に創立60周年を迎える神奈川県予防医学協会。1つの節目を迎えた協会が、これからさらに県民の健康を守り、この地に住み、働く人々の健康支援に関わっていくための、「健康寿命の延伸」に向けた多彩な視点から、各氏に将来への展望を語っていただいた。

(司会：鈴木忠義・神奈川県予防医学協会顧問)

# 5年後の「健康寿命日本一」を目指す取組み 行政と協会が両輪になって推進

岡部英男氏・神奈川県衛生研究所長



**岡部 英男**(おかべ ひでお)氏  
神奈川県衛生研究所長。72年  
広島大学医学部卒業。東京大  
学医学部付属病院、国立国際  
医療センター、東京大学医学  
部胸部外科を経て、テキサス  
心臓研究所外科に留学。87年  
東京大学医学部第二外科・胸  
部外科医局長などを歴任。00  
年より神奈川県藤沢保健福祉  
事務所保健福祉部長、県内の  
保健福祉事務所長を歴任、12  
年より現職。医学博士、日本  
医師会認定産業医。

### 未病を治す

鈴木 岡部先生、県  
は行政の立場から、こ  
れからの県民の健康を  
どのように考えていま  
すか。

岡部 神奈川県民の  
高齢化率は、1970  
年に47%でしたが、  
2050年には36・4  
%になると予測され、  
今後、人口構成が逆ピ  
ラミッドになり、国民  
皆保険制度など、現状  
のシステムの継続が難  
しくなります。そこで

県は5年後に「県民の  
健康寿命を日本一にす  
る」ことを目標に、健  
康寿命日本一戦略会議  
を設置し、平成26年1  
月に「未病を治すかな  
がわ宣言」を発表しま  
した。そこでは特に生  
活習慣病対策に重点が  
置かれ、「超高齢化社  
会の生活習慣病対策と  
して『未病を治すこと  
が大切』という価値観  
を県民文化として育て  
る」「皆で未病を治す  
考え方を学び、社会の  
あらゆる主体が協力し  
あって、その取組みを  
展開する」という2つ  
の理念の下に、食に関  
する「医食農同源普及  
推進事業」、身体活動・  
介護予防・認知症予防  
支援事業として、日常  
生活に運動を取り入れ  
る活動を展開。さらに  
社会活動として人との  
交流を広げる環境づく  
りを行っています。

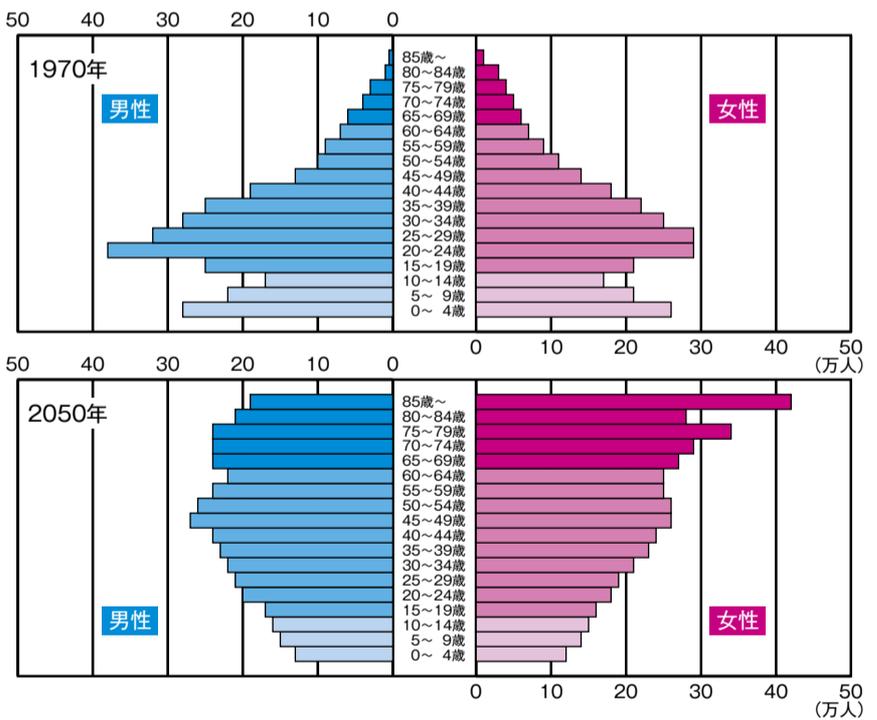
具体的には4つの事  
業があります。まず、  
\*未病センター(仮  
称)をコンビニエンス  
ストアやフィットネス  
クラブなどに置いて、  
県民が日常的に健康に  
関心を持ち、健康づく  
りに取り組めるようにす  
ることです。次にCH  
O(健康管理最高責任  
者)構想で、企業・団  
体のトップが最高責任  
者になって、職員や従  
業員の健康管理をする  
ように組織立て、企業  
文化として健康管理が  
できるような仕組みづく  
りを進めます。さらに、  
高齢化対策の一環とし  
て「高齢者虚弱化判断  
基準」の作成に取組み  
ます。「かながわ保健  
指導モデル事業」では  
3年計画で、海老名市、  
寒川町、大磯町をモデ  
ル地域として県の保健  
師を派遣し、特定健診  
後の保健指導を綿密に  
して生活習慣病対策に  
役立てるなど、健康寿  
命の延伸に取り組んで  
います。

既に進んでいる大企  
業の取組みの成功例を  
他の企業にも普及させ  
たいと考え、昨年10月、  
県庁でCHO構想の  
キックオフ会議を開催  
しました。156の企  
業・団体と9市町が集  
まり、97の企業・団体  
が取組みに手を挙げら  
れ、県もその支援を進  
めています。

### 専門機関として フォロー

鈴木 未病という概  
念がポイントですね。  
急性感染症の時代はい  
まかなり病気になるか  
ら、今は生活習慣  
病のように、生活の中  
でだんだん病気になる

■神奈川県の年代別人口の変化



ていきます。

岡部 未病とは、健  
康と病気の間のグラ  
デーションの部分  
を指しています。

竹田 産業保健の場  
でも、その部分への取  
組みが必要だと考えら  
れ、健康と不健康で表  
現しきれない部分を、  
半健康と表現すること  
もありました。

もありません。

鈴木 「未病セン  
ター」では検査をする  
ようですね。

朽久保 検査もい  
ですが、その結果は基  
準値と比較するだけで  
は評価できません。一  
般の人は真の意味を読  
み解けないからです。

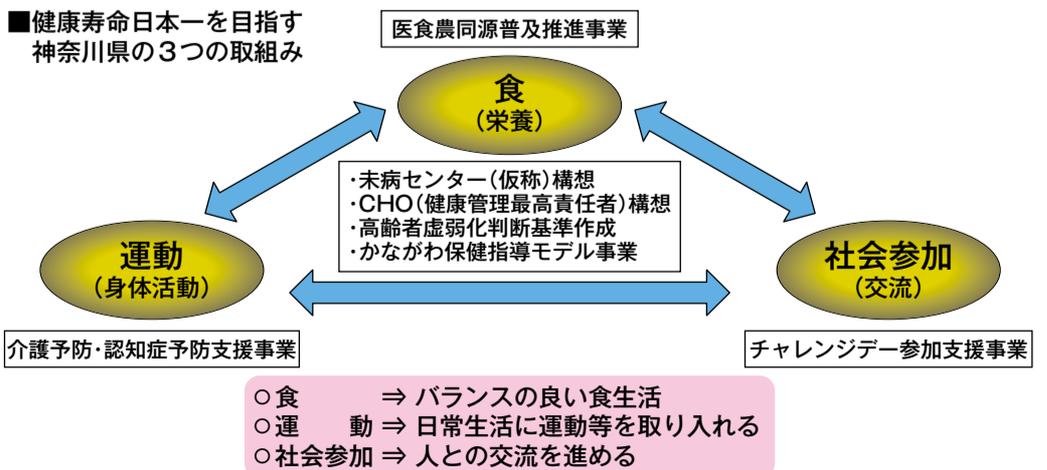


座談会に臨む4氏。左から  
鈴木協会顧問、朽久保氏、  
岡部氏、竹田氏

岡部 われわれもそ  
れを期待しています。  
実施後のフォローはし  
なければなりません。  
県民に日常生活の中か  
ら健康に関心を持って  
もらうという視点です。

朽久保 健康長寿の  
大切さは誰もがわかっ  
ていますが、それを深  
刻に考えているかとい  
うと、必ずしもそうで  
はありません。高齢化  
が進む今、65歳以上の  
医療費が半分以上を占  
め、これ以上は公助へ  
の期待もできませんし、  
寝たきりは本人も家族  
も大変です。健康に無  
関心で、結果的に医療  
機関を頼るのは社会に  
大きな負担をかけます。

### 健康寿命日本一を目指す 神奈川県の3つの取組み



- 食 ⇒ バランスの良い食生活
- 運動 ⇒ 日常生活に運動等を取り入れる
- 社会参加 ⇒ 人との交流を進める

\*未病センター：買い物などの生活活動の延長線上など、身近な場所で手軽に健康状態のチェックや改善プログラムの実践などを、継続的・複合的に行える、実践・実感の場